

# “教育山形「さんさん」プラン”を基盤とした授業改善のポイント

村山教育事務所

## 1 はじめに

村山管内の各学校では、“教育山形「さんさん」プラン”を生かしたきめ細かな指導を基盤とした授業づくりが行われ、一人ひとりの「確かな学力」の育成を目指した授業改善が推進されている。今年度もコロナウイルスの感染状況を鑑み、学びを止めない様々な工夫が行われ、教育課程や学校研究の在り方についての見直しも図られた。

本プランを生かして学校教育の一層の充実を図るために、今年度も、村山教育事務所と管内各市町教育委員会による「“教育山形『さんさん』プラン”推進ワーキンググループ」を開催した。中心話題の一つ「教科担任制における指導の工夫や加配教員の活用」について、取組み状況や課題・要望等の情報共有ができた。教科担任マイスターを配置している市町及び独自に教科担任制を実施している市町からは、教員の指導力向上や児童生徒の学力向上に有効である旨の報告をいただいた。

また、昨年度同様に「特別支援学級における学級編制基準の引き下げ」や「別室学習指導教員の配置」等について、配慮すべきことが複雑化している現状から、継続の重要性が感じられた。

もう一つ、「幼保小中における円滑な接続」について、各市町の現状を話題とした。どの市町においても連携について重要性を感じながらも、どのようなあり方が必要であるか、今後、どのように取組みを進めていくかという点が課題として挙げられた。連続した支援、指導のもと、幼児・児童・生徒が成長してけることを目指していけるような仕組みづくりが重要である。

## 2 村山管内における実践から

### (1) 各学校における「確かな学力」の育成を目指した「授業改善シート」の活用

令和4年度『確かな学力』を育成するための授業改善シート

児童生徒の「確かな学力」の育成を目指すとともに、自律学習・主体的学習に向け、以下の視点や大目としながら、目標の達成づくりに取り組む必要があります。

【課題の設定】「標準的課題」「発展的課題」「基礎・分析」「まとめ・発展」という一連の授業活動のなかで、児童生徒の主体的・協働的に学習することを通して、知識・技能と学びをバランスよく配置させながら、課題を解決するための必要な思考力・判断力・表現力等を主体的に学習に取り組み達成することを旨とします。

**目指す資質・能力の育成につながる授業づくりのポイント**

- ☆「学校として育成を目指す資質・能力」についての共通理解を認め、各教科等で育成を目指す資質・能力をより具体的に設定し、児童生徒と共有する。
- ☆単元を通して育成を目指す資質・能力に照らして評価標準を設定し、評価場面を精選して位置付けることにより、教師の指導改善と児童生徒の学習改善に生かす。
- ☆児童生徒が各教科特有の考え・考え方を働かせながら「課題の設定」や「学び合い」、「まとめ・振り返り」がでるよう、「課題—まとめ—振り返り」に一貫性がある学習活動を設定する。
- ☆児童生徒の主体的な学び、意に基いた学習活動に取り組む「個別最適な学び」と他者と協働的・探究的に学ぶ「協働的な学び」を、単元の中でバランスよく設定する。
- ☆児童生徒が自ら必要な情報を取り出し、分かりやすく整理したりするなどの情報活用能力の育成につながる「教材・教員や学習ツールの一つとしてのICT」を効果的に活用する。

**質の高い学びにつながる「課題の設定」**

- 児童生徒が自ら学習の内容を整理し、見直しをもって取り組むことができる学習課題を設定する。
- 児童生徒の課題意識を醸成することができるように、生活や学習の中で自ら気付いたことや多様な「問い」を受け止める。

**思考の深まりにつながる「学び合いの充実」**

- 児童生徒が自ら目的をもって課題解決のための情報を集め、互いの考えを補完したり切磋・検討したりする学習過程の充実を図る。
- 児童生徒が目的や条件に応じて説明する場を設け、自他の考えを共有する。
- 児童生徒が自己選択や自己決定で学ぶ学び合いの中に位置付ける。
- 児童生徒が考えをより確かなものにするように、他者の考えを取り入れながら自分の考えを再構築したり、まとめたりする時間を確保する。

**学びの自覚と次の学びにつながる「まとめ・振り返りの充実」**

- 児童生徒が学習課題に即したまとめにおいて自ら考えを表現する場を設定する。
- 児童生徒が単元を通して自分の成長や実感を自覚することができるように、振り返りの場面を定期的・計画的に設定する。
- 児童生徒が学んだことや気付いたことを次の学びや家庭学習につなげていくことができるように、児童生徒の振り返りを通じて評価し、評価付ける。

村山教育事務所

山形県教育委員会「令和4年度学校教育指導の重点」と中教審答申「令和の日本型学校教育」を踏まえて、本事務所で作成している「授業改善シート」をリニューアルした。

各学校で育成を目指す資質・能力を明確にし、「確かな学力」の育成につながる授業改善の日常化を図るために、授業改善の柱となる「目指す資質・能力の育成につながる授業づくりのポイント」として以下の5点を示した。

- ☆育成を目指す資質・能力の共通理解と、より具体的な姿での児童生徒との共有
- ☆教師の指導改善と児童生徒の学習改善に生かす評価場面の精選
- ☆「課題—まとめ—振り返り」に一貫性がある学習活動の設定
- ☆単元の中にバランスよく配置する「個別最適な学び」と「協働的な学び」
- ☆情報活用能力を育むためのICTの効果的な活用

さらに、質の高い学びにつながる「課題の設定」、思考の深まりにつながる「学び合いの充実」、学びの自覚と次の学びにつながる「まとめ・振り返りの充実」の具体的な手立てを示し、目指す授業について共通理解を図った。



(2) 「組織力の向上」を目指した学力向上支援チームによる学校訪問



組織力を生かした学力向上の取組みを推進するために、管理職とともに「チェックリスト」を指標とした取組みの評価を行い、短期PDCAサイクルを回すよさを実感してもらうことを大切にしました。また、改善点を明らかにし、学校課題に対してポジティブなスタンスで対策を練る・提案することを継続して行った。

(3) 「組織力の向上」と「指導力の向上」を支援する教育事務所研修の実施

**学習指導力向上研修会**

学習指導要領及び第6次山形県教育振興計画、「教育山形「さんさん」プラン」を受け、「学校組織力を高めるアクションプラン」「教科の本質」「個別最適な学び」を今年度の柱として年間3回の学習指導力向上研修会を実施し、組織力の向上を図った。

- \* 第1回 目指す資質・能力を確実に育む学校の組織力について（講義）  
学校組織力を高めるアクションプランの作成（演習）
- \* 第2回 教科の本質的な学びの実現につながる授業改善のポイント（講義）  
子供の姿を具体的に想定した学習評価を考える（演習）
- \* 第3回 確かな学力の育成につながる個別最適な学び・協働的な学びの充実（講演）

**ネットワーク型研修会**

7つの部会を開設し、年間を通して各部会のテーマに沿った研修を行った。年度末には、各部会の研修の成果を全ての研修部員で共有して学びを深め、指導力の向上を図った。

部会	テーマ	育成を目指す資質・能力
国語	子どもがつくる学び ～学ぶ意欲を支え、協働的な学びにつながる単元づくり～	学びに向かう力・人間性等（進んで読書、言葉のよさや国語の大切さを実感、自分の考えを伝える）
社会	児童生徒の疑問を生かした課題設定 ～ICTの効果的な活用～	根拠を明らかにして自分の考えを表現する
算数	児童が論理的な思考を働かせながら概念形成をしたり進展させたりしていく算数授業 ～主体的・対話的で深い学びにつながる教師の適切な“出”と“待ち”について～	※部会設定が遅れ、資質・能力に関して未設定
理科	児童、生徒の思考の流れに沿った授業づくり	見通しを持ち、検証できる仮説を設定する力
生活・総合	子供から「もっともっと」の声が出るような学びづくり	素朴な気付きから課題を生み出す力（課題設定力）
インクルーシブ教育	みんなが笑顔になれる授業づくり ～社会に向けて自立する力を育てる～	社会に向けて自立する力
ICT	教科や児童生徒の発達段階に応じた有効的なまとめ・表現の仕方	目的に合わせて、まとめ・表現の仕方（方法や手段等）を自分で選択できる力 発達段階に応じて、効果的にプレゼンテーションする力

3 おわりに

「各学校で育成を目指す資質・能力」を明確にし、全ての教員で共通理解を図って日常的に授業改善に取り組んでいる学校が増えている。具体的な目指す姿を子供と共有し、子供の姿での検証を大切にされた学校組織の構築を支援し、「確かな学力」の育成を実現していきたい。



# “教育山形「さんさん」プラン”を基盤とした授業改善のポイント 最上教育事務所

## 1 はじめに

今年度は、コロナ禍ではあったものの、「学校の新しい生活様式」が示され、これまで抑制していた学校行事や体験活動等も、感染対策をしながらコロナ前と同様の内容を行う学校が増えてきている。しかし、コロナ禍による2年間の影響は大きく、活動内容やその規模、さらに児童生徒の取り組む姿勢や意欲といったことから、なかなか元のように思いっきり活動することができていない現状にある。各学校では、その状況を改善していくために工夫しながら児童生徒主体の授業・活動を仕組み、確実に前進している。

そのような学校を支えていくためにも、最上教育事務所では、「授業のレベルアップに向けて」を作成し、授業改善のポイントを示すとともに、各学校での探究的な過程を意識した授業づくりについて指導・支援を行ってきた。これにより、「授業のレベルアップに向けて」を参考にして、学校独自の授業スタンダードを作成する等、各校における探究的な学習の推進が図られている。

授業では、教師が“教育山形「さんさん」プランによる少人数の利点を生かし、一人ひとりの考えを大切にしながら児童生徒主体のペアやグループ学習における対話を通じた深い学びを目指す授業づくりが進められている。

また、最上教育事務所とチームで授業を作り上げる「もがみ授業づくり研修『チームMOGAMI』」や、「学力向上支援チーム学校訪問」等を通じて、各学校における授業づくりを支援している。

## 2 最上管内の実践から

### (1) もがみ授業づくり研修「チームMOGAMI」

教員が元気でなければ、元気な学校ができるはずもなく、先生方が自信をもって授業を行うことが大切である。一方で最上地区は人口減少が進んでおり、どの市町村においても学校規模が小さくなっている現状がある。そのため、1学年1学級という学校や校内に教科担当教員が1人しかいない学校も多くなってきている。小規模の学校では、授業実践や授業の悩みを相談する機会が少なくなっている課題が見受けられる。そのような状況を打破し、先生方が自信をもって授業をしていくために、今年度から「チームMOGAMI」という授業づくり研修を行っている。

「チームMOGAMI」は、3名の先生を1グループとして、グループで相談しながら単元計画も含めた1時間の授業をつくる研修である。また、指導と評価の一体化に関しても、悩んでいる先生方が多いことから、評価規準例の作成も行うこととした。

今年度は、小・中学校国語、中学校数学の3グループを編成し、研修を行った。

#### ① 小学校国語

公開授業：最上町立向町小学校 第5学年 国語科

単元名：「資料を用いた文章の効果を考え、それを生かして意見文を書こう」

講師：山形大学地域教育文化学部 三上 英司 教授

### 授業のレベルアップに向けて



② 中学校国語

公開授業：戸沢村立戸沢学園 第7学年 国語科

単元名：「話題や展開をとらえて話し合おう」

※ 当日は都合により公開を中止し、動画をもとに、事後研究を行った。

③ 中学校数学

公開授業：金山町立金山中学校 第3学年 数学科

単元名：「2次方程式」

講師：最上広域市町村圏事務組合教育研究センター 黒沼 昌志 指導主事

どのチームにおいても、参加したメンバーからは、同じ教科や同じ学年の先生方3人で1つの指導案をつくることは、とても新鮮で非常に勉強になることが多かった等、実践を通じて成果を感じている様子が伺えた。また、授業研究会の参加者からも講師の先生の講話内容も含めて、今後の授業改善につながる研修になったとの評価を受けた。

(2) 学力向上支援チームによる学校訪問

学校教育目標の達成に向けて、学校の取組を推進していくために、学力支援アドバイザーが中心となり、管理職と「チェックリスト」を指標とした取組評価を行い、PDCAサイクルを回す助言を行っている。その際の話し合いの視点として下記に示した学校が作成したアクションプランを活用している。

アクションプラン（最上版）

The document is titled 'アクションプラン（最上版）' and is divided into three main sections:

- ① 調査問題・児童生徒質問紙の分析と、育成を目指す資質・能力**
  - 1 児童生徒の実態・課題
    - 「全職員での実態・課題把握」が学力向上の第一歩
    - ① 4月よりアクションプランで「つきたい力」を明確にする
    - ② ①②③④
    - ③ ①②③
- ② 育成を目指す資質・能力**
  - 2 育てたい資質・能力の明確化
    - 「育成をめざす資質・能力」の見える化
    - 学校教育目標、目指す児童生徒像、校内研究等とリンクし、育成したい「資質・能力」の明確化を！
- ③ 必要な指導・取組み等**
  - 「各学期の重点」を明らかにするため、内容の焦点化と具体化を！
  - 「評価を数値で行うことで、成果が具体的に可視化に！」

At the bottom, there is a table for '評価方法（達成率）' (Evaluation Method (Achievement Rate)):

学期	標準評価	現況
1学期	75%	6
2学期	%	%
3学期	%	%

アクションプランは、5月までに作成して、8、12、2月に学校の成果・課題をまとめ、新たな手立てを進める時に、教職員全体の共通理解を図るためのものである。最上版として、作って終わりにならないように、校内研究とリンクしてつきたい資質・能力を明確にしたり、次の一手をワンプランとして明記したり、より具体化して、PDCAが進むようにしている。

3 おわりに

「主体的で対話的で深い学び」を実現するには、「さんさん」プランを活用し、一人ひとりの学びをしっかりと見取ることが重要である。そのことが指導と評価の一体化につながり、よりよい授業になっていく。そのような学校・教員集団の育成を目指して、これからも学校を支えていきたい。



# “教育山形「さんさん」プラン”を基盤とした授業改善のポイント 置賜教育事務所

## 1 はじめに

“教育山形「さんさん」プラン”の下支えを基に、管内の各学校において「児童生徒の学び」を大切に授業改善が進んでいる。

特に今年度は、「資質・能力の育成を最上位目標に据えた学校研究の充実」「児童生徒の主体的な学びを意識した授業づくり」とPDCAサイクルを回しながら授業改善を図る学校が増えていることが大きな成果と言える。

以下、研修会を通じた各学校の変容、実践の様子や成果について紹介する。

## 2 「誰一人取り残さない教育」に向けて

### (1) 資質・能力の育成

研究主任等を対象に年度の早めの時期に設定し、共有を図りたい内容を伝達した。

### 令和4年度の全国学力・学習状況調査

4月22日(金)  
令和4年度「教科担任マイスター」第1回ベーシック研修  
講師 山形大学 野口 徹 教授 より

- ◎教科を超えた汎用的な資質・能力の育成
- ◎「総合的な学習の時間」の充実と見直し
- ◎カリキュラム・マネジメントによる精選
- ◎小・中連携による義務教育間での資質・能力の育成

まずは、最上位目標（ホンモノの目標）の合意形成を図っていくことが重要である。



学力向上研究協議会【R4.5.30】より

② 「資質・能力」を身に付けるために必要な指導・取組み等  
「確かな学力」の養成（発達の段階を踏まえ）を意図しながら指導・取組みを考えましょう。

	＜学習の基礎となる資質・能力＞			基礎で特に育成したい資質・能力
教科・領域・単元	言語能力	情報活用能力	問題発見・解決能力	主体的に説明する力
知識及び技能	意味の豊かな文章の読み解きや、文章の構成の理解ができる。	読者の意図や感情を読み取る力、必要な情報を活用できる。	本課題で導き出した問題発見・解決の過程を説明する。	説明の目的や、聴き手によって説明を変えることができる。
思考力、判断力、表現力	言葉に込められた意図を読み取る力、文章の構成を分析する力。	読者の意図や感情を読み取る力、必要な情報を活用できる。	各教科で身につけた力を統合的に活用する。	課題の背景や、考え方を説明し、説明を尊重する。
学びに向かう力、人間性	読者の意図や感情を読み取る力、文章の構成を分析する力。	読者の意図や感情を読み取る力、必要な情報を活用できる。	問題解決の過程で、考えを述べ、説明を尊重する。	

● 日常の学習指導や取組み（学校研究を中核に）

(1) 授業研究  
・校内研修により、教科領域と基礎的学力の定着・習熟のあり方などの研究を行う。(ア)(イ)  
・研修課題図書「カリキュラム・マネジメント」を全員で読み、共通理解を図り研究を推進する。(イ)  
(2) 実践研究（年間）  
・学校研究主題「ともに学び合い、豊かに育つ子どもたちの育成」  
→ 各教科・総合的な学習の時間を柱に説明する力を育む  
・本校で特に育成したい資質・能力を「説明する力」とし、学校教育目標と資質・能力の三つの柱との関係を確認する。カリキュラム・マネジメントにより教科横断的に育成する。  
・「説明する力」を育成する「めざす子ども像」を明確にし、実現する場を創造する。(ア)  
・中核教科の内容を「国語（話す・書く）」「算数（思考力・判断力・表現力に係る関係事項）」とし、カリキュラム・マネジメントの中で「総合的な学習の時間（生活科）」とする。(イ)  
・単元の探究を軸とした視点から見直し、考えを広げ、深められるようにする。(ウ)  
・創立100周年記念行事における児童の発表と、教育に携わる者同士の交流を、重要な表現「発信」の場として位置づけ、カリキュラム・マネジメントを進め、年間計画を見直す。(イ)  
・ICTを活用し、広く発信に「発信」する。(ア)(イ)  
・児童のより高い学習意欲をもとに、変容を促すに資する。(ア)(イ)

＜授業実践＞  
どの教科においても、横断を前提にした取組をさせる。(ア)  
・ふり起りを大切に、考えや感情を言葉にして表現させることを習慣づける。(イ)  
・各単元のめざす姿を明確にし、異学年や全校児童で学び合うことに重点をおいた授業を実施していく。(ウ)

「めざす子ども像」「資質・能力」をリンクさせ、学校研究を中核にして日常の学習指導の充実を図る。(アクションプランより)

学年・教科	単元・単元	指導のねらい	評価の観点
1年国語	国語の楽しさや面白さを知り、読者の意図や感情を読み取る力、必要な情報を活用できる。	読者の意図や感情を読み取る力、必要な情報を活用できる。	読者の意図や感情を読み取る力、必要な情報を活用できる。
2年国語	読者の意図や感情を読み取る力、必要な情報を活用できる。	読者の意図や感情を読み取る力、必要な情報を活用できる。	読者の意図や感情を読み取る力、必要な情報を活用できる。
3年国語	読者の意図や感情を読み取る力、必要な情報を活用できる。	読者の意図や感情を読み取る力、必要な情報を活用できる。	読者の意図や感情を読み取る力、必要な情報を活用できる。
4年国語	読者の意図や感情を読み取る力、必要な情報を活用できる。	読者の意図や感情を読み取る力、必要な情報を活用できる。	読者の意図や感情を読み取る力、必要な情報を活用できる。
5年国語	読者の意図や感情を読み取る力、必要な情報を活用できる。	読者の意図や感情を読み取る力、必要な情報を活用できる。	読者の意図や感情を読み取る力、必要な情報を活用できる。
6年国語	読者の意図や感情を読み取る力、必要な情報を活用できる。	読者の意図や感情を読み取る力、必要な情報を活用できる。	読者の意図や感情を読み取る力、必要な情報を活用できる。

単元を通して資質・能力の育成を目指す。  
「指導と評価の一体化」の視点で、児童生徒の主体的な学びと見取りを大切にするため単元構成を工夫した。(授業研究会指導案より)

## (2) 児童生徒主体の授業づくり

○「考える力を育む授業づくり研究会」及び「学習指導研修会」での実践

今年度は国語、算数・数学、社会の3教科で、共通でテーマ「誰一人取り残さない教育の実現」、理念「どの子どもにも自ら学びをつくっていきける姿を」と設定し、授業研究会を実施した。

### <国語> 小学校第5学年で実施

**単元名** ◆物語の全体を通して、作者の伝えたいことを捉え、  
考えたことを「Q&Aブック」にまとめよう  
**<教材名>** 『たずねびと』 朽木 洋（光村図書）

主体的な読み手をつくっていくために、単元を通して一人ひとりが「問い」を持ちながら読み進めることができるように設定した。子ども同士の対話により考えが広がったり深まったりすることが、「問い」をブラッシュアップし「深い学び」につながっていく姿につながった。子どもたち自身が学び方を身に付け、自立した学習者に育っていきけるように、授業観・指導観の転換が必要となってくる。

### <算数・数学> 小学校第6学年で実施

**単元名** ◆比例と反比例

評価規準を明確にし、子どもの学習状況・理解度を十分に把握した上で、本時では教師が出過ぎずに子どもたちが自己選択しながら主体的に取り組むことをねらいとした。より日常的な課題を設定することで、子どもたちは解決のために必要に応じて相談したり、操作したりする様子が窺えた。日常の授業から、困り感の共有や振り返りを大切にしてきたことで、子どもの学びに向かう姿も変わってきていると感じられた。

### <社会> 中学校第3学年で実施

**単元名** ◆国の政治の仕組み

テーマと社会科で育成をめざす資質・能力との関連、社会や地域とのつながりを意識して授業づくりを行った。「裁判員制度」について学んでいく過程で、単元を貫く課題に迫るための本時の課題になっているかを吟味し、子どもたちが社会的事象を自分事としてとらえ、考えたいと思える授業を積み重ねてきた。司法に関わる様々な立場の状況について、模擬裁判等を通して具体的にイメージさせることで様々な視点に着目しながら多面的・多角的に考えを深めていく姿につながった。

## 3 おわりに

子どもが主体的に学ぶためには、「さんさんプラン」のめざす一人ひとりを大切にしたいきめ細かな指導と評価が必要不可欠となる。また資質・能力の育成は義務教育間だけでないために、いかに「自立した学び手」を育むかが重要となってくる。連携を大切にしながら一丸となって、置賜としての学力向上につなげていきたい。



# “教育山形「さんさん」プラン”を基盤とした授業改善のポイント

庄内教育事務所

## 1 はじめに

庄内教育事務所管内では、各学校において児童生徒の確かな学力の育成をめざし、“教育山形「さんさん」プラン”を生かしたきめ細かな指導を基盤とした授業づくりに取り組んでいる。

また、本プランのねらいである「わかる授業、楽しい学校

をめざす”ことを教育事務所と管内の各

市町教育委員会が確認し、庄内指導主事会として作成した『授業改善2022』（※右上）や『ICTステップアップ表』（※左）をもとに、各学校の実態に応じて、学校の主体性を生かした支援を行うことができるように、めざす方向性一つにしながら各学校への指導・助言を行っている。



## 2 庄内管内における実践から

### (1) “教育山形「さんさん」プラン”に係る非常勤講師研修会の実施

庄内では“教育山形「さんさん」プラン”に係る非常勤講師の先生方を対象に、それぞれの配置の意図に沿って、少人数指導のあり方等について研修を深め、個々の資質の向上を図ることをねらいとして研修会を実施している。

今年度は「これからの特別支援教育と支援のあり方について」というテーマで具体的な事例を紹介しながら研修を行った。参加者からは、

配慮が必要な児童生徒への対応の仕方や環境構成など、すぐ実践に活かしたいという声が寄せられた。また、別室学習指導教員の先生方は、地区教育相談員等連絡協議会と兼ねて研修を行い、実践事例を持ち寄って、生徒との関わり方や支援方法について情報交換を行った。特に、校内の支援体制については、具体的な連携方法を共有することができた。



### (2) 「学校研究ワンアップ研修会」の実施

本研修会は主に管内の研究主任を対象としており、今年で5年目を迎えている。3回シリーズで実施しており、今年度は約70名の参加申し込みがあった。近年は、研究主任だけでなく複数名参加を希望する学校も見られる。

参加者の傾向として、研究主任経験年数が2年以下の若手の研究主任が増えていることが挙げられ、今年度も参加者数の約75%を占めていた。また、それぞれが学びたい研修内容について「カリキュラム・マネジメント」や「ICT活用」、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」



や「学習評価の充実」など、ニーズも多様化してきている。そのため、アンケート等でニーズを把握し、講師選定や情報交換のテーマ設定などを工夫して実施した。実施後のアンケートでは、参加者の満足度において全ての会において9割以上の肯定的な回答を得ることができた。

### 第1回研修（参集）

第1回研修は、研究主任としての役割や学校研究の進め方について確認した後、昨年度の学校研究における成果や課題を受けた「今年度の活性化案や変更点等」を主な視点として、グループごとに活発な情報交換を行った。初めて研究主任を務め、不安を抱えている先生方が多かったが、話し合いを経て不安が解消されるとともに、今後の研究推進につながる機会となった。

#### 【参加者の振り返りより】

初めての研究主任で勉強不足を感じていました。他校の先生方と情報交換し、自校の研究に取り入れたい部分が見え、研究計画の具体をさらに考えたいと思いました。



### 第2回研修（Zoom オンライン）

第2回研修は、東京学芸大学教育実践課の高橋純教授より「ICT 活用による主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」というテーマで講話をいただいた。現在、各学校で ICT 活用が行われているが、教科としての資質・能力の育成につながっているか、組織としてどのように検証していくかなど、研究主任の立場から考えるきっかけとなった。



#### 【参加者の振り返りより】

本校でも ICT の取り組みについて試行錯誤しているところですが、単なる知識の習得のためにとどまらない活用の在り方を探り続けていきたいと思えます。

### 第3回研修（参集）

第3回研修は、「庄内地区における全国学調の結果から見えること」というテーマで講義・演習を行った。グループ協議では授業改善に向けた次の一手を話し合った。話し合いでは「概念形成に至るまでのプロセスを大事にする」、「付きたい力の系統性を見据えて授業づくりをすること」、「個人ではなく組織として深い教材研究を行うこと」などの重要性を共有することができた。

#### 【参加者の振り返りより】

全国学調の問題から、どのような力が求められ、なぜ誤答を選んだのか、正しく解答するにはどのような授業を積み上げていけばよいのか校内でも共有したいと思います。



## 3 おわりに

授業改善をより推進していくために「学校として育成を目指す資質・能力」を明確にし、組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていくことが重要である。今後も、各学校の実態や課題に応じて学校の主体性を生かした支援を行うとともに、各校の取り組みのよさを積極的に発信していきたい。